

## あなたのお金は覗かれています

今まで、実にいろいろなお客様との出会いがありました。  
アドバイザーとして正直、難しい対応を迫られたこともあります。

いえ、わたしが申し上げているのは、  
07年2月末の、上海市場に端を発したマーケット急落や、  
今もくすぶっている、サブプライム問題などに対する「対応」ではないのです。  
● 銀行さん、に対する「対応」なのです。

私たちは普段意識しませんが、  
銀行さんは私たちの【お金状況】をしっかり把握しています。  
(それはそうですね、預金にいくら入っているか筒抜けなのですから・・・)

「そういえば、先日  
養老保険の満期保険金が500万円下りました・・・」

「わたしは証券会社で保有していた  
株式10銘柄と投資信託を解約して、  
3000万円を振り込んでもらったよ・・・」

「いやあ、長い間売れなかった不動産がようやく売れてね。  
成約価格はちょうど7000万円だったよ」

あるいは(不謹慎な例で恐縮ですが、)  
ご親族がお亡くなりになられて、  
「保険金受取人である方に1億円の保険金が振り込まれる」

んー、それってどこに・振り込まれますか？  
上記のような場合、みな「銀行の口座」にお金が入金されるはずですが。  
私たちは大きな金額になればなるほど、「銀行預金」を決済口座として利用します。

結果、  
「何百、何千万円のお金がそこに入った」ということが、  
銀行さんには筒抜けになるのです。

(このこと自体は) 良い・悪いの問題ではなく、  
資金移動の実態 にすぎません。

問題なのは、この「事実」を利用して、  
銀行さんがあからさまに 投資信託・変額年金  
(銀行さんは投資型年金と呼びます) などの  
営業 を掛けることだと わたしは思います。

(金融サービス業者のひとりとして、ストレートに申し上げますと)  
「何百万、何千万円のお金がそこにある」  
ということを知っている、  
その【情報の価値】はたいへん高価なものであると思います。

証券会社さんも、百貨店の外商部も、  
BMW の担当者も知り得ない【貴重な情報】なのです。

その【情報】を、銀行さんは 資金決済 という  
半ば社会のインフラを預かる会社として、  
必然的に知り得てしまうのですね。

(繰り返しになりますが)  
知り得てしまうこと自体に、問題があるわけではありません・・・。

今年に入って、弊所に相談に来られるお客様の  
典型的なパターンが 以下 でした。

1. あるご事情により、  
まとまったお金が銀行口座に振り込まれる
2. 担当と名乗る人、  
それから副支店長格の人が自宅にやって来る (もちろん、銀行の)

「このままで置いておくのですか」  
「きちんと資産管理していきましょう」  
ということで、投資信託 を勧めてくる。

3. 電話 & 訪問の攻勢に遭い、  
投資信託、変額年金などを契約。

(わたしが見聞きした中でいちばん多かったのが、  
資産分散型、毎月分配型のファンドです…)

4. その後、「でも、やはりおかしいな」

「いったいわたしが買ったのは どんな金融商品なのか？」  
など、お客様の中でふつつつと疑問が湧いてくる。

(この間、金融商品を買ってから大体1~3ヶ月くらいです)

ご自分でネット、本などを通じて様々な情報に触れられ、

「手数料がすごく高い商品かも」

「もしかしたら買ってはいけない投信を買ってしまった!？」

ということに気付かれ、

弊所にコンタクトを取られるというパターンです。

さて、

弊所がお客様との間でコンサルティングを開始します。

何度かの話し合いの中で、

より適切なポートフォリオに移行することを

お客様自身にご決断していただいたのち、

既存のファンドを解約することになるのですが、

そこからは大変なのです。

あるお客様の例ですが、ファンドを解約したら

いきなり銀行さんから電話がかかってきて、

「どうして解約なされたのですか？」

そのお金、何に使われるのですか？」

と訊かれたといいます。

? ?

どうして解約なされたのですか？

そのお金、何に使われるのですか？

? ?

放っておいてください。

わたしのお金 なのですから。

(皆さん、ここでウンウンと頷いてくださいよ・・・)

(わたしがお客様からお話を伺った限りでは)

銀行さんの営業姿勢は、

荒くなってきているなあと感じます。

もし、あなたが望んでいないのに、

電話を掛けられたり、自宅に来られたりしたら、

「電話も、来られるのも 困ります！」

とはっきり担当者の方に教えてください。

**あなたには【拒む権利】があります。**

(あの一、すべての銀行さんが

強引というわけではないと思いますが)

もう少し、紳士的になってもらいたいものです。

諸事情により、自分の口座に

まとまったお金が入ってくるということは、

人を 不安 にさせるものなのです。

あるお客様には、

こう申し上げたこともあります。

「担当の方があまりにひつこく言ってくるようなら、

資産管理のことは、ファイナンシャルプランナーの方に

一任することにしましたので、もう電話を掛けてきたり

しないでください、と言ってください」

あるいは、

執拗な営業マンに辟易していた方には、

「顧客の意思に反して そんなことをおっしゃるなら、  
金融庁の【金融サービス相談室】に電話します！

<http://www.fsa.go.jp/receipt/soudansitu/index.html>

と言ってやってください」とアドバイスしたこともあります。

まあ、銀行さんもひとつの会社ですから、  
每期、毎期の「利益」を追い求める必要があることはわかります。

私たち投資家は、

「あー、あの人もノルマとかあってタイヘンなのね」

とオトナの気持ちで金融機関さんを見る【余裕】が必要なのだと思います。

そのためには、私たちは【知識武装】するしかありません。

知って、自分の身は自分で守る という「覚悟」が必要なのです。

私たちが賢くならない限り、金融機関さんは変わらないのですから・・・。